



第4章 東松山市が目指す文化財保護の将来像

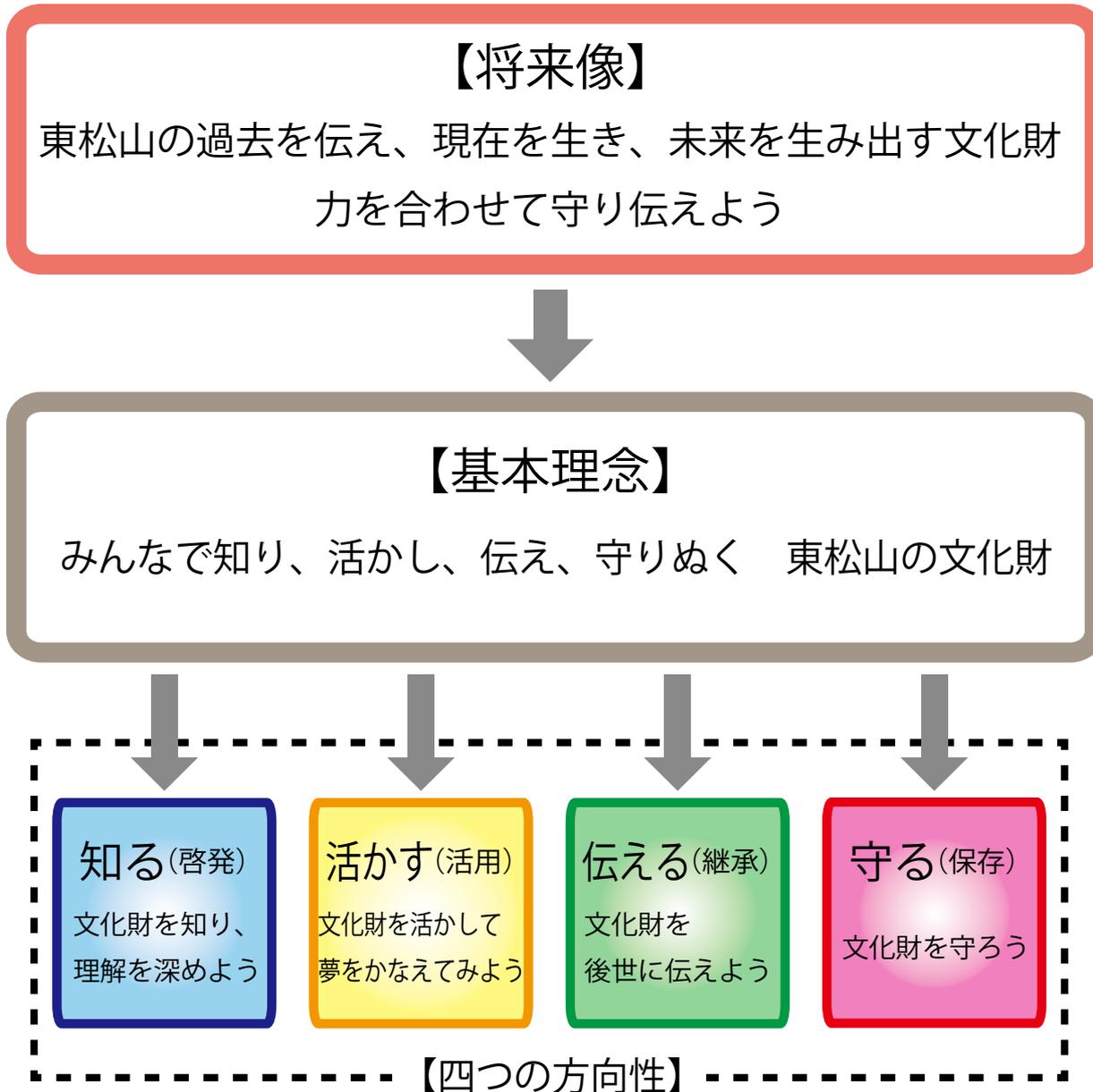
東松山市の歴史文化の特性は、東松山市を生きる人々が代々大切に守り継いできた地域アイデンティティの核となるものであり、それらを現代、そして後世に伝えるのが文化財です。これら唯一無二の文化財を保護するためには、ただ守るだけでなく、現代を生きる我々が文化財を活かしていくことも大切です。こうした文化財保護の在り方を実現していくためには、文化財を保護することが生み出す東松山市の将来像を、東松山市に生きる我々が共有することが大切です。

1. 文化財保護が生み出す東松山市の将来像

文化財所有者・市民・地域・研究者・観光客・行政など、様々な立場でお互いの強みやコミュニティの絆を活かし、みんなが関わり、力を合わせ、協働で文化財保護に取り組むことで、「誰かがやる」のではなく、「みんなでやる」経験と実績を積み重ねることが、文化財を確実に後世に継承することや文化財の新たな魅力を引き出すことにつながります。文化財保護の担い手の輪が広がれば、取組のさらなる強化につなげていく好循環を生み出せます。さらにそうした取組は、市外からの人流も生み出すなど地域コミュニティの活性化にもつながり、文化財に限らず地域が抱える様々な課題に、みんなで取り組む波及効果を生み出すきっかけになります。

2. 東松山市の文化財保護の基本理念

この将来像を実現するためには、東松山の地で、悠久の時を、多くの人が動き、力を尽くして守り伝えてきた「証」である文化財を、東松山市に生きる人々みんなのものにとらえることが大切です。文化財の所有者や行政や一部のファンだけが苦勞して守ろうとするだけでは、文化財はいずれ消えてなくなってしまいます。現代の東松山市に生きる私たちが確実に文化財を後世に守り伝えていく責務を果たすための方向性には、文化財を知り（啓発）、活かし（活用）、伝え（継承）、守る（保存）4つの視点があります。



将来像・基本理念・方向性模式図